

富士見市価値共創プラットフォーム

『SDGsフジミライテラス』

モデル事業検討会

令和8年7月30日（木）



本日の流れ



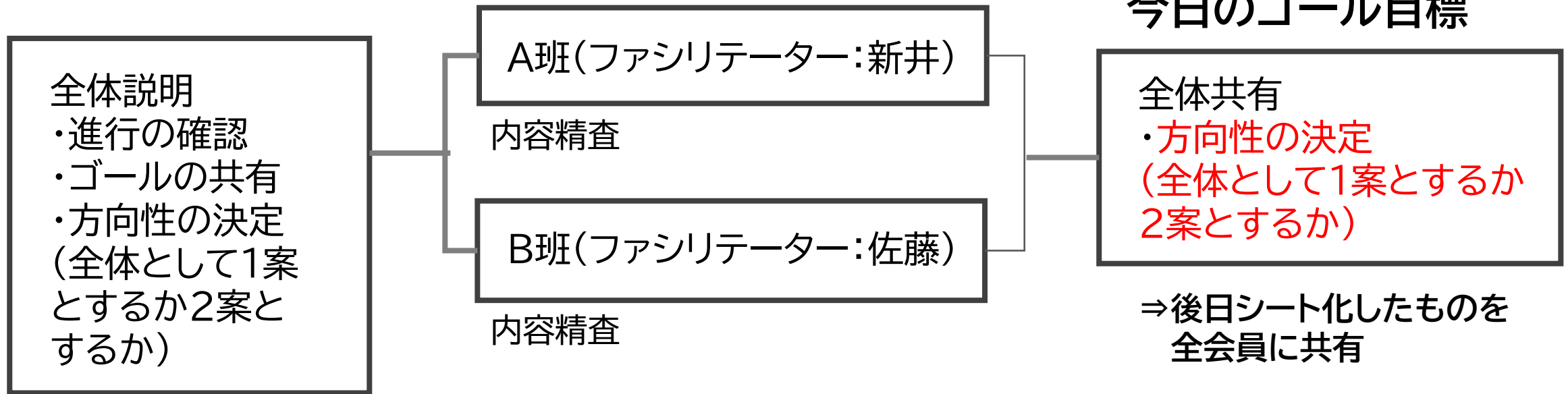
- 1.開会
- 2.本日の進行とゴールの共有
- 3.前回検討会の振り返り
- 4.モデル事業の検討（方向性の決定）
- 5.閉会

本日の進行とゴールの共有

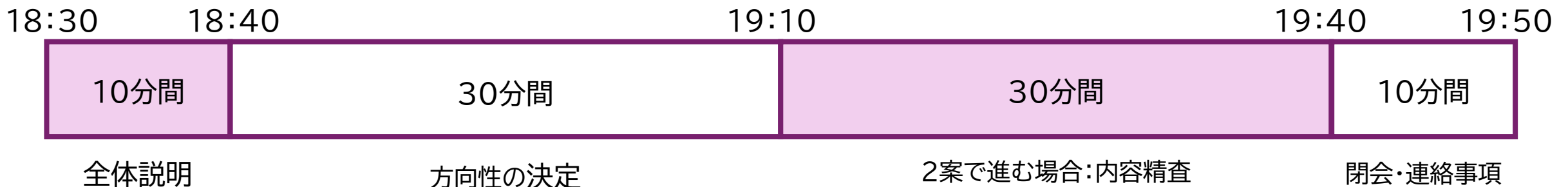


■全体の流れ

2案で進む場合



■タイムテーブル案



前回検討会の振り返り（Aグループ）



Aグループ意見・方向性まとめ（モデル事業案）

6月18日検討会の意見整理・方向性集約

1 検討の前提(前回検討会で整理した方向性)と結論(Aグループ案)

前回(第2回・令和8年5月21日)の検討会で出された意見は、次の3つの方向性に整理されている。本検討会では、この3つの方向性を起点に、どの方向に進めるか、どれをブラッシュアップしていくかを議論した。

- ・ 方向性A:体験型マーケット・商売体験(子ども商店街、ふるさとコンテスト等)
- ・ 方向性B:農業・食・ものづくりを通じた体験(一次産業から加工・販売までのバリューチェーン体験)
- ・ 方向性C:金融教育・職業理解(A・Bを実効性あるものにするための前提教育)

協議の結果、方向性Aはスケジュールの都合により今回は見送ることとし、**方向性Bを軸に、農業を絡めた事業(一次産業から加工・販売までの体験)を中心に据えること、その要所に方向性C(金融・職業教育)をポイントとして組み込む方向をAグループの案とした。**

2 事業の方向性に関する意見(方向性B+C)

(1)農業・一次産業体験について

- ・ 一次産業のプロセス(田植えから収穫、加工、販売まで)を、フジミライテラスの事業・取組として一貫して体験させられると良い。
- ・ 「楽しい」「美味しい」というコンテンツは強い。子どもが何かをやり、成果を出せる場を準備できると良い。
- ・ 都市(都市近郊)型の農業という富士見市の強みを活かした体験が良い。クラインガルテンのような形もやっても面白そう。
- ・ 農業の取組で盛り上がる小川町などと比べると、富士見市は近郊型と位置づけられる。
- ・ 田植えと収穫はキラーコンテンツと言える。一方で除草などはあまり人が集まらない傾向がある。
- ・ 昨年度の取組がマルシェや高校でのキャリア教育という単発の取組だったのに対し、今回のプランは常設型の農業体験となっており、昨年度までと比べて一歩前進した内容になっている。

(2)金融・職業教育の組み込みについて

- ・ 金融教育などは、それぞれの事業と並行する形で、プロセスの要所に入れたり、裏で回したりする形で加えることができ、方向性BとCの合体にもなる。
- ・ 一次産業から加工・販売までのバリューチェーン体験の中で販売や広告など、マーケティングに関する内容、原価と収益などの金融知識も学べると面白い。
- ・ 事業で出した収益を運用させてみるのも面白い。

3 体験設計・付加価値に関する意見

これまでの議論を通じて、「非日常的な体験」が一つのキーワードとして共有された。フジミライテラスの事業の中にも、こうした非日常的な体験を盛り込んでいけるとプラスアルファになるのでは。

(1)非日常体験・DIY・ワークショップ

- ・ (参考)過去に公民館リノベーションの取組を行った。幅広い世代で公民館を使い倒すという考えのもと、水谷公民館でコーヒーカフェやビアガーデン(販売方式)を開催し、その売上で中庭のリノベーションを行うなど、多様なDIY体験ができる取組だった。
- ・ コンクリートの打設など、自宅ではなかなか手が出せないDIYは面白い。
- ・ (参考)水谷公民館でTシャツのシルクスクリーンプリントのワークショップを開催した。シンプルで長く使えるデザインを意識し、「クラフトシティ」のロゴ、テーマは「発酵する地域文化」とした。

(2)地域資源の活用

- ・ 公園の利用は、フジミライテラスのこれまでの実績によりハードルが下がっている。これを活用した運動・スポーツのイベントも面白い。
- ・ シャッター店舗が出た商店街を使い、店の前で販売を行うといった活用も考えられる。
- ・ 大御庵の杜の活用は、(まだ活用できる状態になっていないのであれば)2年目・3年目以降のプランとして取っておいても良い。

(3)富士見市ならではの体験

- ・ どこでもできる体験も良いが、富士見市でなくてはできない体験であれば、フジミライテラスが色々と考えて取り組んでいるという思いも残る。富士見市でなければできない体験をやらせてあげたい。
- ・ 学校の授業だと、全員参加という特性上、子どもたちの熱量に違いが出てしまう。興味がない子にとってはマイナスの記憶として残ってしまう点が残念であり、参加者の主体性を活かせる設計が望ましい。

前回検討会の振り返り（Aグループ）



Aグループ意見・方向性まとめ（モデル事業案）

6月18日検討会の意見整理・方向性集約

4 継続性・自走に関する意見

- ・ フジミライテラスの考えは、最終的には自走を目指す取組を作ることにある。取組は単発ではなく、継続していくことを目指す。
- ・ 自走させる仕組みとするためには最終的には収益化していかないと、ボランティアだけで続けていくと継続性が難しくなる。
- ・ 属人的になると継続性は生まれない。また、マンパワーにも限界があるため、取組の広がりにも限界が生じる。
- ・ 自走や収益化を目指すことは大切だが、初年度は体験のようなものでも良い。
- ・ フジミライテラスとしてのコンセプトを残すことで、そのコンセプトをベースに、特定の人でなくても続けられる仕組みを整えることができる。
- ・ そうすることで自走・循環できる仕組みができ、地域の課題解決に継続的に取り組める。それがSDGsの考え方にもつながる。
- ・ 行政の仕事は、地域が課題解決に取り組めるような場や枠組みをコーディネートすることであり、それが地域での課題解決につながると考える。

5 ブランディング・コンセプトに関する意見

- ・ ロゴは大事である。フジミライテラスをブランディングできるようなロゴやキャッチコピーがあると、考え方を伝えやすくなる。
- ・ ロゴも大事だが、「フジミライテラスって何？」と聞かれたときに、皆が同じように答えられる芯のようなものが必要である。ロゴもこれがあってのものであり、SDGsに偏りすぎない方が良いのではないか。
- ・ 地域に対して思いを持つ人たちを集める場所を作りたい。これを取組の目標としても良い。

6 本会のまとめ（次期モデル事業の方向性）

本会の議論を踏まえ、次期モデル事業の方向性を次のとおり整理する。

- ・ 方向性Aはスケジュールの都合により今回は見送る。
- ・ 方向性Bを軸とし、農業を絡めた事業（一次産業から加工・販売までの一貫した体験／常設型の農業体験）を事業の中心に据える。
- ・ 方向性C（金融・職業教育）は、独立した事業ではなく、Bの各プロセスの要所でポイントとして組み込む。
- ・ 田植え・収穫などの楽しさを感じられる体験や、DIY・ワークショップ等の「非日常的な体験」、富士見市ならではの都市近郊型農業の強みを活かす。
- ・ 初年度は体験を主としつつ、属人化を避け、コンセプトを軸に自走・循環できる仕組みづくりを意識する。
- ・ 大御庵の杜の活用は、2年目・3年目以降のプランとして検討する。

前回検討会の振り返り（Bグループ案）



モデル事業（キャリア教育）検討シート

事業名：地域活性化！！わたしたちの街をもっと元気にするには？

事業内容（実施時期、手法、会場など）

手法：グループワーク

学習目標：地域の現状や課題を知る、多様な意見を尊重しながら話し合う、実現可能なアイデアを考え発表する

流れ：導入（地域活性化とは何かを簡潔に説明）
→グループワーク→発表→振り返り

話し合いに行き詰った時にアイデアカードを提示、事前に地域の課題を抽出（商店街を盛り上げる・地元の祭りを盛り上げる・ご当地グルメを考える・空き家を活用する・高齢者と交流する場を作るetc…）

事業の目的・ねらい

- ・若い世代に固定概念にとらわれない柔軟な考えを出してもらい、地域活性化について検討してもらい、大人の実現性を意識しすぎる意見より突拍子もない発想が出る可能性
- ・限られた条件の中で優先順位や実現性を考えながら、地域への関心を高め探究的な学習につなげる
- ・出た意見の中で実現性を考慮し、来年度以降フジミライテラスで実施する

事業の対象者

中学生or高校生

想定される課題・懸念点

- ・地域の実情を中高生がどのくらい理解しているか。
- ・限られた時間の中での配分

前回検討会の振り返りと次回の方向性



前回結果振り返り	次回モデル事業の方向性
● 4/23検討会意見(一部抜粋) ・高校生の関心やニーズを調査した方がよい ・生徒が企画できるもので実施できるとよい ・モデル事業の間隔を1年半、2年など待たず毎年継続的に実施できるとよい ・キャリア教育後にビジネスアイデアコンテストを行い、グランプリは市で事業化できるとよい ・家庭科などの部活と連携して商品開発などの原価計算、利益などを教えてマルシェにつなげるのはどうか。	● 生徒側も受講するだけでなく、企画参加できる双方向型の事業 ● 間隔を開けずに実施していきたい ⇒遅くとも年度内の実施 ● 中長期的にはキャリア教育後のマルシェに展開できる事業

短期的な取組……キャリア教育の継続

中長期的な取組…キャリア教育後にマルシェに展開を目指す

モデル事業の検討

(参考：今後の実施事業について)

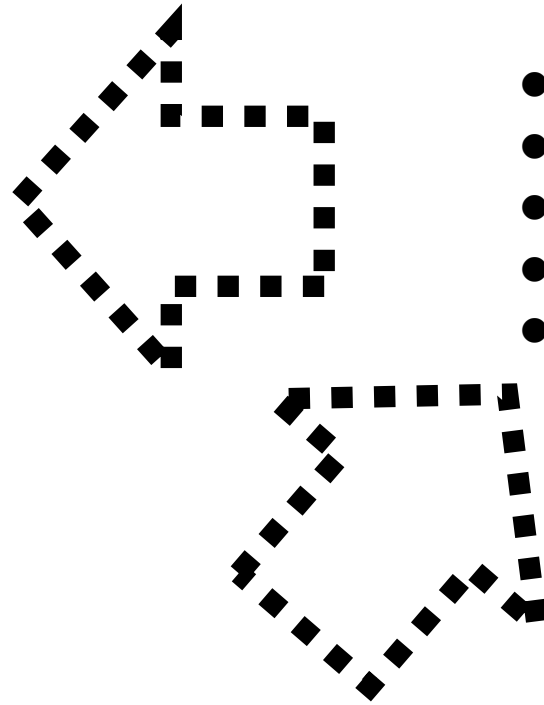


あるべき姿につながる取組

- 高校生向けキャリア教育
 - 小学生・中学生向けの社会教育
 - パートナー企業への見学ツアー
 - 勝瀬原記念公園でのマルシェの継続
 - 他地域での公園マルシェの開催
 - ブルーベリー農園の整備
 - 月1回の100人会議
- etc

解決すべき課題

- 市民総活躍の推進
- 地域経済の活性化
- 自然環境の保全
- 住みたい・住み続けたいまちづくり
- 将来における活力の向上



2030年のあるべき姿

【社会面】
市民総活躍
(誰もが活躍できる
まち)

【経済面】
地域経済の活性化

【環境面】
脱炭素社会の構築